

- 1 派遣期日 平成 29 年 1 1 月 1 0 日 (金)
- 2 研修先 学校名 東京都立清瀬特別支援学校
所在地 東京都清瀬市松山 3-1-97
<http://www.kiyose-sh.metro.tokyo.jp/>

3 研修内容

今年度、本校では「『見える・分かる・できる』授業づくり～構造化をいかした実践を通して」をテーマに掲げ、日々接している児童生徒の現状 (Before) から構造化をいかした手立てを工夫し、成果 (After) の例を集めるといふ研究を行ってきた。

今回視察させていただいた清瀬特別支援学校の学校経営シートでは、教育課程の特徴のひとつに「小・中・高をつらぬく構造化教育」を挙げており、構造化を中心に据え、校内の環境を整えるために日々改善を重ねているというお話しを頂いた。以下、本校でも応用可能だと感じた構造化の例を挙げる。

(1) 環境の構造化の例

① 動線の工夫

【色の利用】

児童 1 人 1 人にテーマカラーが決まっており、日直用の名札、ロッカー、机を揃える場所等にカラーテープやシールで目印をつけておく。

ある教室では、一番前の席の児童が一番右のロッカー、2 番目の席の児童がその隣・・・というように机と座席の場所がリンクしており、すっきりとした動線で行き来ができるように工夫されていた。

【教師の位置】

児童生徒と教師の間には一定の距離があるため、教師が広い視野で見ることができる。

【振り返りの例】

教室の大まかな見取り図を描き、その中で自分がどのように動いたかのラインを書き込んでセルフチェックを行っている。

② パーティションの活用

教室の形や児童生徒の実態によって多少の差があるが、パーティションを活用している教室が多数あった。今後、さらに数を増やしていく予定とのことであった。



パーティションを前に配置した例



パーティションを左右に配置した例

③リラックスの場の提供

本校では多くの教室にソファやベンチがあり、安定を図ったり、コミュニケーションをとったりしている様子が見られる。今回の視察では教室の中にベンチはあまり見られなかったが、清瀬特別支援学校でも必要性を感じており、今後充実させていく計画がある。



(2) 見通しをもたせるための構造化の例

①予定表

児童生徒の実態により、形式に多少の違いがあるが、多くの教室でその子に応じたカード等を作成し、利用していた。(本校でも用いられている視覚支援シンボル集「ドロップス」を全校共通して使用)黒板に貼り付けられる小さなカゴに、めくったカードが入っていく形の予定表を使用している学級が多く見られた。それらの材料の多くは100円均一の店で購入できるものであり、試行錯誤の末、この形が定着したとのことであった。



清瀬特別支援学校では、壁の多くでマグネットの利用ができるため、児童生徒の席の近くに貼り付けられるこの形がスタンダードになったようである。



②ワークシステム

全学級で、一人一台ずつ個人用のラックを使用していた。このラックには、個別の課題が種類毎に入れられており、1段目が終わったら次は2段目・・・というように見通しをもって進めることができる。校長先生の話によると、「ワークシステムは自習の意味合いをもっており、自分1人で進められて、教師がそれを後から評価できるものが望ましい」とのことであった。

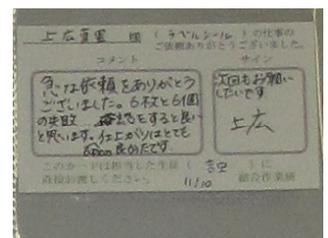


「1人でも分かって、できる」という経験を学校でたくさん積む

ことが、将来社会に出たときに生きる。そのためのワークシステムであるが、クラスによってラックの使い方には差があり、校内でもよりよいあり方を検討しているそうである。

(3) 自分の活動を振り返るために

高等部の作業学習は、重複のグループ、知的のグループ、軽度のグループに分かれている。軽度のグループでは、就職先のニーズに合わせ、清掃作業と事務補助を行っている。事務補助のグループでは、校内や近隣の学校で使用するラベルシールやワークシート、名刺等の作成や各種配布物の印刷と配布を請け負っており、依頼主からの声をカードで受け取っている。



声の中には感謝の言葉に混じり改善点の指摘もあるが、生徒達は自分の仕事ぶりを文字により客観的に受け止めることで、次回の仕事に活かすことができている。

4 感想

一日をかけ、小学部から高等部までの授業と児童生徒が下校した後の教室を見せていただいた。構造化の整備が整い、「見える」「分かる」経験を日々重ねている児童生徒には余裕が感じられた。清瀬特別支援学校の掲げる構造化の中には、今年度、本校の学校課題研究の中で挙げられた手立てと重なるものも多数あった。今年度、本校職員が「身近な子ども達に対しての支援」として取り組んできた数々の手立ては、今後「日立特別支援学校のスタンダード」として共有していける内容であることの裏付けである。今回見せていただいた数々の構造化の例は校内で報告し、さらなる手立てのヒントとして皆に伝えたいと考えている。